

●伊勢物語の特徴

- 〔 歌物語 〕の最初の作品
 〔 在原業平 〕とみやびの文学

●さらに詳しく

中古・平安初期の成立。一二五段前後から成るが、各段に必ず一首以上の歌をふくみ、その歌を中心として物語が展開され、それぞれが独立した物語となっている。いわゆる典型的な〔 歌物語 〕である。

各段の多くは「昔、男ありけり」で始まり、その「男」(主人公)は『 古今和歌集 』の代表的歌人であり、「 六歌仙 』の一人である「 在原業平 』と想像される。

全体の約三分の二の段が「 男女の愛情 』を取り上げ、残りの段で肉親の情・主従の情・友情・旅情などを描いている。一貫する精神は、平安貴族の理想とする「 みやび 』(優雅なふるまい)であり、文体は簡潔で、叙情性も豊かである。

有名な段としては、「初冠の段」(二段)、「 芥川 』の段」(六段)、「 東下り 』の段」(九段)、「 筒井筒 』の段」(二三段)、「梓弓の段」(二四段)、「惟喬親王の段」(八二・八三段)などが挙げられる。

■芥川 (六段)

●登場人物

- 男
 ○ 女二二条の后
 ○ 堀川の大臣
 ○ 太郎国経の大納言

●歌について

白玉か 何ぞと人の 問ひし時 つゆとこたへて 消えなましものを

■訳

(あれは) 白玉(真珠)ですか、何ですかとあの人が尋ねたとき、(あれは) 露ですよと答えて(私も露のように) 消えてしまえばよかったのになあ。(そうすれば、悲しまずにすんだのに。)

問一 傍線部「あの人」とは誰ですか。 〔 女 (二条の后) 〕

問二 この歌を詠んだのは誰ですか。 〔 男 〕

東下り (九段)

● 登場人物

○ 男 ○ 友とする人 ○ 修行者 ○ 渡し守

● 歌について (現代語訳文の空欄に、適当な語句を入れなさい。)

① から衣 着つつなれにし つましあれば
はるばるきぬる 旅をしぞ思ふ

訳

何度も着ているうちに肌に「なれる」から衣のように、長年「なれ」親しんできた妻が(都に残って)いるので、はるばるやって来た旅が(しみじみと悲しく)思われることだ。



問 次の修辞法の正しい組み合わせを線で結び、①の歌で使われているものがある場合は、それを指摘しなさい。(p. 98 ~ 99 参照)

○ 枕詞 歌の中心となる語句と縁のある言葉を使い、歌にあやをつける手法。
①の場合 「から衣・着・なれ・つま・はる」

○ 序詞 特定の言葉の上に置かれ、その言葉を飾ったり歌の調子を整えたりする語。五音が多い。修飾する語との関係は習慣的に一定している。
①の場合 「からころも」

○ 掛詞 仮名五文字を、一句から五句までのそれぞれの頭に置いて歌を詠むこと。
①の場合 「かきつばた」

○ 縁語 同音異義語を利用して、二語またはその一部分に二つ以上の意味を兼ねさせる技巧。
①の場合 「なれ || 褻れ・馴れ / つま || (衣の) 棲・妻 / はる || 張る・はるばる / き || 来・着」
※褻れ(衣服がなじむこと)

○ 折句 特定の言葉の上に置かれ、その言葉を飾ったり歌の調子を整えたりする語のうち五音以上のもの。作者が情意をもって自由に作り出す一回限りの表現であることが多い。
①の場合 「使われていない」

② 駿河なる 宇津の山辺の うつつにも 夢にも人に あはぬなりけり

訳 駿河の国にある宇津の山あたりにさしかかったが、(その山の名前のように)「現実」でも夢の中でもあなたと会わないことだなあ。(それは、あなたが私を忘れてしまったからだろう。)

③ 時知らぬ 山は富士の嶺 いつとてか 鹿の子まだらに 雪の降るらむ

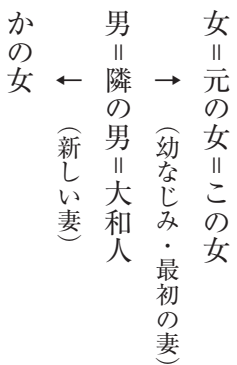
訳 時節をわきまえない山は、富士の山である。今をいつだと思っ、鹿の子まだらに「雪が降っているのだろうか」。

④ 名にし負はば いざと問はむ 都鳥 わが思ふ人は ありやしやと

訳 (都という)名前を持っているならば、さあ尋ねよう、都鳥よ、私の「恋しく思う人」は(都で)無事に暮らしているのかいのかと。

筒井筒 (二三段)

● 人物関係図



▽ 歌について

① 筒井つの 井筒にかけし まるがたけ 過ぎにけらしな 妹見ざるまに

〔幼いころ〕筒井の井筒（井戸の枠）と高さを比べた私の背丈も、（井筒の高さを）越えてしまったことだろうよ。あなたと会わないでいる間に。

② 比べこし 振り分け髪も 肩すぎぬ 君ならずして たれかあぐべき

〔あなたと長さを〕比べ合ってきた私の振り分け髪も、肩を過ぎるほど長く伸びてしまった。あなたではなく、いったい誰のために髪上げをしようか。（あなたのためにするのだ。）

③ 風吹けば 沖つ白波 たつた山 夜半にや君が ひとりいゆらむ

〔風が吹くと沖の白波が立つ、その「たつ」という名の龍田山を、夜中にあなたは一人で越えているのだろうか。〕

④ 君があたり みつつを居らむ 生駒山 雲な隠しそ 雨は降るとも

〔あなたの（いらっしやる）あたりを見つめながら暮らしていよう。生駒山を、雲よ隠さないでくれ、たとえ雨は降っても。〕

⑤ 君来むと 言ひし夜ごとに 過ぎぬれば 頼まぬもの 恋ひしこそ降る

〔あなたが来ようと言った夜ごとに（待っていたのに、むなしく時間が）過ぎてしまうので、もうあてにはしないが、（それでもあなたを）恋しく思い続けて日を送っていることだよ。〕

問一 ①～⑤の歌を詠んだのは、それぞれ誰ですか。

- ① 「男」 ② 「女」 ③ 「女」 ④ 「かの女」 ⑤ 「かの女」

問二 ①～⑤の歌の囲み部分はすべて「あなた」を意味する言葉ですが、この「あなた」とは、それぞれ誰を指しますか。

- ① 「女」 ② 「男」 ③ 「男」 ④ 「男」 ⑤ 「男」

問三 ③の空欄に当てはまる適当な言葉を書き入れなさい。

問四 ④の傍線部「雲な隠しそ」について、何を隠さないでくれと言っているのですか。

「（男の住んでいる方向にある）生駒山」